



水防災タイムライン・カンファレンス in 紀宝 開催報告

特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構

1-1. 目的・趣意

タイムラインの本格導入が始まってから、約2年が経過しました。この間、先進自治体やリーディングプロジェクトの取り組みがおこなわれ、今後もさらなる広がりが期待されます。

こうした機会に、全国に先駆けて取り組みを実施している自治体の首長や関係機関から効果や課題を発表して頂き、意見交換することで、今後の展開について話し合い、タイムライン未実施の自治体や組織・団体等に向けてメッセージを発信することを目的として、水防災カンファレンスを開催しました。

1-2. 日程

- 平成28年7月16日（土）
プログラム1：タイムライン策定機関の共有の場 「タイムラインの今とこれから」
プログラム2：シンポジウム 「日本の防災対策が変わる」
- 平成28年7月17日（日）
プログラム3：エクスカーショ

1-3. 主催・参加機関

主催：紀宝町、特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構

参加機関(18団体)：JST RISTEX(国立研究開発法人科学技術振興機構社会技術研究開発センター)、NHK、共同通信社、滝川市、平取町、多治見市、三重県、豊岡市、貝塚市、大豊町、球磨村、国土交通省 水管理・国土保全局、札幌開発建設部、近畿地方整備局、紀南河川国道事務所、岡山河川事務所、八代河川国道事務所(順不同)

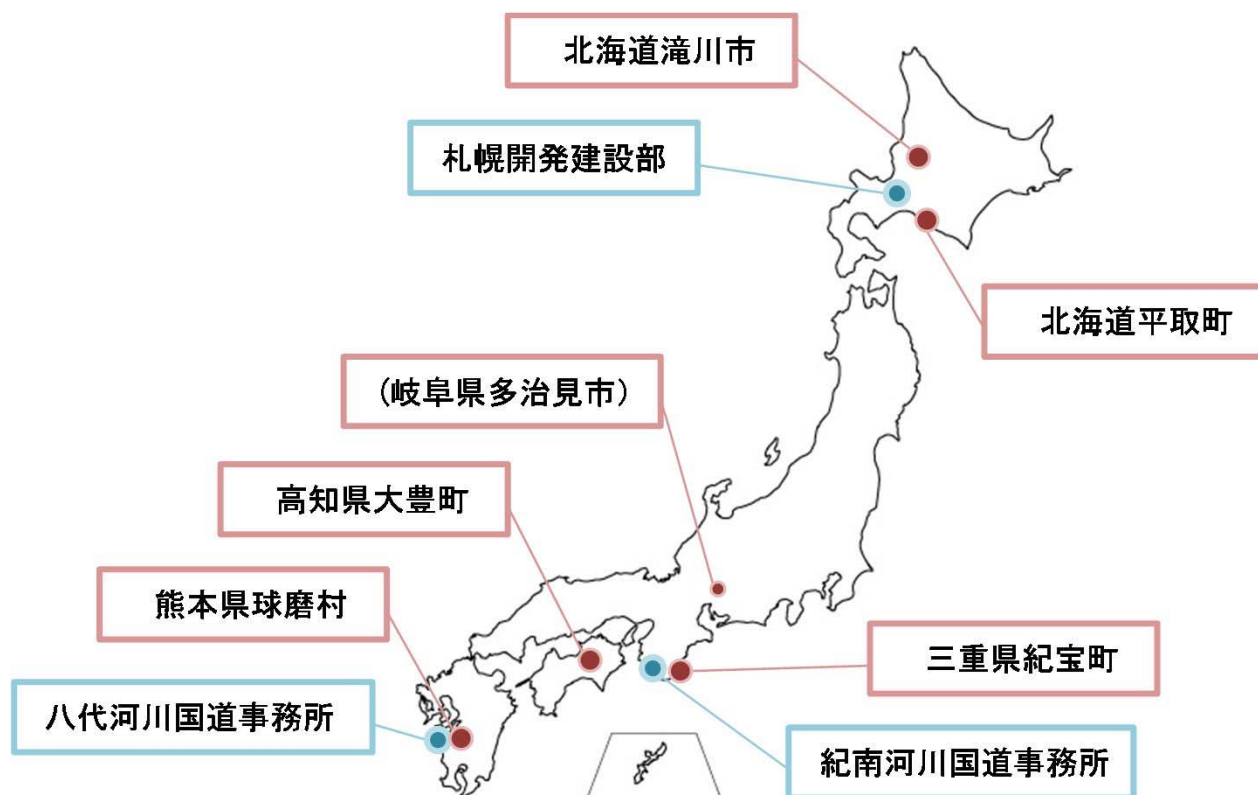
1-4. プログラム 1

タイムライン策定機関の共有の場

「タイムラインの今とこれから」

～運用状況の報告～

- タイムライン運用機関同士による情報共有する機会が少ないことから、防災担当者による現状報告会を実施し、事例整理と課題・悩みを共有しました。



○開会挨拶

紀宝町長 西田 健

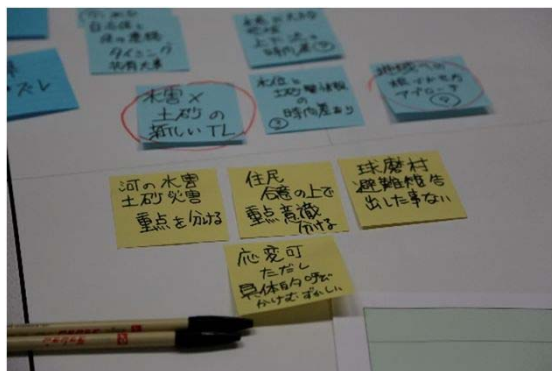
岡山河川事務所長 藤兼 雅和

1-4. プログラム 1

タイムライン策定機関の共有の場

「タイムラインの今とこれから」～ワークショップ～

- タイムライン運用や地域の防災対応力を向上させるため、防災担当者が抱える悩みを共有し、参加者の知見やアイデアによって解決の糸口を見つけるワークショップを開催しました。



○閉会挨拶

社会技術研究開発センター長 岩瀬 公一
水管理・国土保全局 中込 淳

1-5. プログラム 2

シンポジウム「日本の防災対策が変わる」

～基調講演・事例報告～

・ 趣意

タイムラインの効果、課題、展望を発信していくため、策定に関わる有識者、自治体職員、河川管理者からの事例報告会を実施しました。

・ 基調講演

「タイムライン日本の防災が変わる」

松尾 一郎 (CeMI環境・防災研究所 副所長)

・ 事例報告

「紀宝町でのタイムラインの取り組み」

中村 直哉 (紀宝町 総務課防災対策担当 課長補佐)

「気象情報を早めの防災対応に生かす」

村中 明 (CeMI上席研究員[元気象庁 予報課長])

「河川防災とタイムライン」

宮本 健也 (国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課 河川保全企画室 企画専門官)

○開会挨拶

紀宝町長 西田 健

CeMI理事・関西本部長代理 小河 保之

国土交通省 近畿地方整備局 河川部長 井上 智夫



・ 基調講演「タイムライン日本の防災が変わる」
松尾 一郎 (CeMI環境・防災研究所 副所長)

- ・ 災害の発生サイクルと担当職員の交代サイクルは必ずしも合わないため、誰もが初めての対応になってしまう。「繰り返す課題」である。
- ・ 事前に防災対応を決めておき、気象や現場状況に応じた「臨機対応を可能」にし、「被害を最小限」にする。これがタイムラインである。
- ・ タイムラインを臨機応変に活用することで、早めの対応を実施しても「残業は増えない」。また、空振りにはゼロではないが、命が助かったので結果的に良かったと容認する社会が必要である。



・ 事例報告「紀宝町でのタイムラインの取り組み」
中村 直哉 (紀宝町 総務課防災対策担当 課長補佐)

- ・ 「住民と協働した防災・減災行動」を計画し、平時から地域と連携した準備と心構えが大切。「人の命が一番」を信条として、役場全体で統一した行動を取り、関連機関等との情報を全体共有している。
- ・ 台風が来る前に要支援者の対応完了が可能となり、一般住民に対しても余裕をもって広報している。
- ・ 「関係機関で協定」を結んでおり、一歩踏み込んだ情報提供を可能にしている。
- ・ 「災害支援者の避難」について、災害発生時には全員避難を済ませておくことが望ましいが、避難や撤退の判断時期が今後の課題となる。



・基調講演「気象情報を早めの防災対応に生かす」
村中 明 (CeMI上席研究員[元気象庁 予報課長])

- ・「気象災害の防止は可能」である。日頃から意識して災害の非日常スイッチを準備し、犠牲者ゼロを目標としたい。「人が動く、人が人を動かす防災」が必要。災害内容と避難行動を繋げて適切な時期に、適切な防災対応をとることが大切。
- ・「防災情報提供システム」を有効活用すべき。膨大な情報から必要情報の見当をつけておく。意識すべきは、気象情報と防災行動の結びつきである。
- ・気象台を活用して、何のために何が知りたくて何が不安なのかを伝えて、情報を取りに来て欲しい。「もしも」の対応に備えることで、正常性バイアスから逃れられる。



・基調講演「河川防災とタイムライン」

宮本 健也 (国土交通省 水管理・国土保全局 河川環境課
河川保全企画室 企画専門官)

- ・「水防災意識社会再構築ビジョン」では、水災害への意識の再構築が必要であると考えている。避難を促す緊急行動として、タイムライン作成を位置付けて、首長などを対象に働きかけを行っている。
- ・国交省においてはタイムラインを2つの柱に分け、避難勧告の発令に着目したタイムラインの策定とリーディングプロジェクトとしての取り組みの両面から検討を進めている。タイムラインは作る段階から、「運用・改善していく段階」へ移行している。「災害文化」として根付かせていきたい。

1-5. プログラム 2

シンポジウム「日本の防災対策が変わる」

～パネルディスカッション～

・ 趣意

タイムラインの効果・課題・展望を議論するため、首長・有識者・メディアを交えた討論会を実施しました。

・ コーディネータ

山崎 登（NHK解説主幹）

・ アドバイザ

松尾 一郎（CeMI環境・防災研究所 副所長）

・ パネリスト

中込 淳（水管理・国土保全局 河川計画課 河川計画調整室/
河川計画調整室長）

柳詰 正治（球磨村長）

岩崎 憲郎（大豊町長）

西田 健（紀宝町長）

所澤 新一郎（共同通信社/編集部長）

○閉会挨拶

紀南河川国道事務所長 水野 浩次



プログラム2 シンポジウム「日本の防災対策が変わる」

1-6. プログラム3 エクスカーション

・ 趣意

平成23年紀伊半島大水害の経験を踏まえ、タイムラインと並行して整備を進めた防災施設の整備状況を見学しました。

・ 見学地

- ①浅里地内、②鮎田水門、③高岡輪中堤、④明和小学校、
- ⑤成川高台、⑥紀宝町役場・防災拠点施設





プログラム3 エクスカーション